

東員町地域公共交通計画の評価等結果(令和7年度)

目標			目標を達成するための取組	調査方法	評価・次年度に向けた課題や取組				備考		
					R5	R6	R7	考察			
【基本目標1－1】 鉄道の維持・活性化			現在値	目標							
北勢線の利用者数(乗車人員)	2,551,724人	現状以上に増加	【事業1－1－1 北勢線の利用促進】 ・北勢線の利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指します。 ・北勢線事業運営協議会と連携した取り組みを実施します。 ・町内で行われるイベントなどに積極的に参加し、北勢線や三岐線を身近に感じてもらう取り組みを実施します。	運行业者への聞き取り	2,150,364人 (R5.4～R6.3)	2,204,941人 (R6.4～R7.3)	2,234,586人 (R7.4～R8.3)	・昨年度と比べ、乗車人員全体では2.9万人増加(1.3%増加)し、223万人となった。利用者別においては、通勤1.3%減、通学2.2%増、定期外2.3%増であった。コロナ以前の数値までは戻っていないものの、4年連続で増加しており、行動規制緩和の定着や、IC化による利便増進の効果ができていると考えられる。	B	・前年度に引き続き、北勢線の利用促進事業であるサンタ電車や親子ツアーズ、謎解き旅などを行った。また、町情報誌(東員Walker)への記事掲載や、東京で行われたイベントでの啓発及び物品販売を実施し、北勢線を広く啓発した。次年度も引き続き、沿線市町や北勢線事業運営協議会と連携した取り組みを実施し、北勢線のさらなる利用増を図る。 ・引き続き、沿線市町と連携した北勢線、三岐線に対する支援を実施する。	
鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合	17.3%	現状以上に増加	【事業1－1－2 北勢線の維持】 ・北勢線沿線市町である桑名市、いなべ市と協力し北勢線の維持に必要な支援を実施します。 【事業1－1－3 三岐線の維持】 ・三岐線沿線市町である四日市市、いなべ市と協力し三岐線の維持に必要な支援を実施します。	—	—	—	15.3%	・令和7年度に実施した町民アンケートにおける、鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合は15.3%で、目標の17.3%(令和元年の数値)を下回った。北勢線、三岐線ともに利用者数は上昇傾向であるが、コロナ以前の数値までは戻り切っていないことが要因と考えられる。	B		
【基本目標1－2】 バス、タクシーの維持・活性化			現在値	目標							
路線バスの年間輸送量(桑名阿下喜線)	38.0人/日	現状以上に増加	【事業1－2－1 路線バスの利用促進】 ・路線バスの利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指す。 ・交通事業者が取り組んでいる施策を住民などに情報提供します。	運行业者への聞き取り	40.8人/日 (R4.10～R5.9)	46.2人/日 (R5.10～R6.9)	40.9人/日 (R6.10～R7.9)	・【桑名阿下喜線】目標値である38.0人/日(令和2年度の数値)に対し、令和3年度は下回ったが、令和4年以降は上回って推移している。令和7年度は前年に比べ減少した。 ・【イオンモール東員線】現状値である31.3人/日(令和2年度の数値)から大幅増で推移している。近年は減少傾向にある。	A	・第2次東員町地域公共交通計画の実施事業に掲げている「2－1 公共交通の乗り継ぎダイヤ調整」及び「3－1 オレンジバスの再編と新たな移動手段導入の取組」の実施において、町内移動だけでなく、路線バスなどの広域移動を意識した乗継の利便性向上を図る。	
路線バスの年間輸送量(イオンモール東員線)	31.3人/日	現状以上に増加		運行业者への聞き取り	45.1人/日 (R4.10～R5.9)	42.9人/日 (R5.10～R6.9)	39.0人/日 (R6.10～R7.9)		A		
タクシー助成利用者数	418枚	現状以上に増加	【事業1－2－2 タクシーの利用促進】 ・障がい者のタクシー利用助成など、交通弱者がより利用しやすいタクシーサービスを提供することにより、維持、活性化を目指す。	令和7年度の利用実績(地域福祉課)	285枚 (R5.4～R6.3)	311枚 (R6.4～R7.3)	377枚 (R7.4～R8.3)	・基準値には達していないものの、令和6年度と比較して66枚増、21%上昇となった。	B	・次年度も引き続き、障がい者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、タクシー利用助成を継続する。	
【基本目標1－3】 持続可能な仕組みの構築			現在値	目標							
オレンジバスの収支率	13.7%	15%	【事業1－3－1 オレンジバス運賃体系の改定】 ・オレンジバスの収支率は約14%しかなく、国からの補助金などで運行経費の約71%、残りの約15%は町費です。今後、運行経費増が予想されることから、運賃収入増を図るための運賃体系見直しを実施します。 ・割引制度の導入などにより、町民の費用負担が過度に重くならないよう考慮して実施します。	令和7年度の実績(政策課)	15.2% (R5.4～R6.3)	15.6% (R6.4～R7.3)	17.2% (R7.4～R8.3)	・収支率は減価償却が終了して運行委託料が減ったことから、1.6%改善して17.2%となり目標値を上回った。 ・運賃収入は、令和3年度の運賃改定以降大きく増収。その後も上昇基調であったが、令和7年度は5万円減少(0.4%減)とほぼ前年並みとなった。利用者数増、収入減の要因としては、おでかけ元氣バス利用者数の増加が考えられる。	A	・次年度も引き続き「おでかけ元氣バス事業」や「小学生運賃の無料」などの施策を継続するとともに、第2次東員町地域公共交通計画に実施事業として掲げている「停留所環境の整備」や「キャッシュレス決済導入」を検討、実施し、利便性の向上及び利用者の増加を図る。 ・次年度も引き続き、生活交通を考える会を開催し、公共交通の利用促進につながる取り組みを実施する。	
町のオレンジバスの運賃収入額	8,516千円	現状以上に増加	【事業1－3－2 生活交通を考える会の継続】 ・公共交通に係る各種事業の提案や実施を行うために、年数回開催している「東員町生活交通を考える会」を継続します。	令和7年度の実績(政策課)	11,826千円 (R5.4～R6.3)	12,216千円 (R6.4～R7.3)	12,168千円 (R7.4～R8.3)		A		
【基本目標2－1】 交通結節点の利便性向上			現在値	目標							
町内鉄道駅の乗車人員(東員駅)	184,604人	現状以上に増加	【事業2－1－1 オレンジバスと鉄道とのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、鉄道駅における乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運行业者への聞き取り	168,338人 (R5.4～R6.3)	169,464人 (R6.4～R7.3)	175,319人 (R7.4～R8.3)	・東員駅は前年に対し5,855人増加、3.5%上昇。定期外、通学定期は上昇したが、通勤定期が減少した。目標値には達していないものの、上昇傾向である。 ・穴太駅は前年に対し1,293人増加、1.2%上昇。定期外、通勤定期、通学定期の3種とも増加した。目標は下回っている。 ・北勢中央公園口駅は1,204人増加、1.5%上昇。定期外、通勤定期は上昇したが、通学定期は減少した。目標は下回っている。	B	・鉄道、路線バスとの接続調整による乗り継ぎの利便性向上については、令和5年10月に実施したルート・ダイヤ改定にて実施済み。 ・令和7年10月に発行したエリア情報誌「東員Walker」への公共交通啓発記事掲載や、東京で行われた「ふるさと帰郷フェア(9月)」や「三重テラス東員町単独イベント(11月)」における北勢線のPRを実施。 ・令和7年6月26日、2月10日に笹尾東地区で実施した公共交通に関する出前講座など、北勢線やオレンジバスなどの公共交通を利用したおでかけについて考える機会の創出や、公共交通の理解や利用を促す啓発活動を実施。 ・次年度も引き続き、乗り継ぎの利便性向上や利用者増加のための啓発活動を継続する。	
町内鉄道駅の乗車人員(穴太駅)	126,968人	現状以上に増加	【事業2－1－2 オレンジバスと路線バスとのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、路線バスにおける乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運行业者への聞き取り	113,562人 (R5.4～R6.3)	112,338人 (R6.4～R7.3)	113,631人 (R7.4～R8.3)		B		
町内鉄道駅の乗車人員(北勢中央公園口駅)	104,337人	現状以上に増加		運行业者への聞き取り	80,907人 (R5.4～R6.3)	78,588人 (R6.4～R7.3)	79,792人 (R7.4～R8.3)		C		
【基本目標3－1】 オレンジバス再編			現在値	目標							
オレンジバス乗車人員	83,844人	現状以上に増加	【事業3－1－1 オレンジバスの再編】 ・オレンジバスの行き先がわかりにくいという声や交通空白地に対応するために、生活交通を考える会の議題としてわかりやすいルートを検討します。 ・昼便については、多くの居住地、多様な施設を巡回するルートとなっているため、南北線と東部線の役割分担を明確にした上で、利用者の行き先を考慮し、利用の少ない区間は廃止にするなど、利便性の高いルートに見直します。 ・バス利用者乗降データを活用し、適宜利用者ニーズを把握します。 ・ルートの見直しに合わせて、鉄道、路線バスとの接続を調整し、ネットワーク全体としての利便性を確保します。	運行事業者による集計	76,715人 (R4.10～R5.9)	75,705人 (R5.10～R6.9)	76,163人 (R6.10～R7.9)	・前年に対し、458人増加、0.6%上昇。目標値(令和元年10月～令和2年9月)に対し7,681人の不足。前年はルートダイヤ改正に伴い一部で乗り換えが不要になったことで利用者数が減少したが、本年は増加に転じた。	B	・【基本目標1-3】に記載の通り、おでかけ元氣バスなどの利用促進策や、利便性向上の取組、公共交通に関する啓発活動を継続し、利用者数増加につなげる。	
オレンジバスを利用している町民の割合	6.5%	現状以上に増加	—	—	—	5.1%	・令和7年度に実施した町民アンケートにおける、オレンジバスを利用している町民の割合は5.1%で、目標の6.5%(令和元年の数値)を下回った。コロナ以前の数値まで戻り切っていないことが要因と考えられる。	C			

東員町地域公共交通計画の評価等結果(令和7年度)

目 標			目 標 を 達 成 す る た め の 取 組	調 査 方 法	評 価 ・ 次 年 度 に 向 け た 課 題 や 取 組				備 考		
					R5	R6	R7	考 察			
【基本目標3－2】 新たな移動形態の研究・実現推進			現在値	目 標							
新たな移動手段の取り組み事業数	0事業	1事業	【事業3－2－1 新たな移動手段などの取り組みを推進】 ・人口減少や急速な高齢化が進む東員町の地域特性に合った運行形態を研究します。 ・交通空白地など地域が抱える課題について、グリーンスローモビリティの活用など、関係機関や住民との協働による方法を研究し、実現に向けて推進します。 ・国や県と連携し、自動運転などの新しい技術や移動手段に取り組みます。 ・中上地区の「外出サポート活動」(毎月15日に中上地区からイオンモール東員までワンボックスカーで買い物送迎)などのように、地域と町が協働して取り組みます。	期間中の取組実績	0事業 (R5.4～R6.3)	0事業 (R6.4～R7.3)	0事業 (R7.4～R8.3)	・新たな移動手段の導入実績は無し ・デマンド交通について、システム業者、運行業者にヒアリングを実施し、サービス内容及び予算間の把握を実施した。	C	・第2次東員町地域公共交通計画に実施事業として掲げた「3－1 オレンジバスの再編と新たな移動手段導入の取組」において、東員町の地域特性に合った移動手段について検討し、新たな移動手段の実証実験、本格導入につなげていく。	
【基本目標4－1】 外出支援			現在値	目 標							
おでかけ元気バス事業の利用者数	－	年18,000人(延べ)	【事業4－1－1 おでかけ元気バス事業の実施】 ・町内在住の75歳以上の高齢者及び65歳以上75歳未満で運転免許証を返納した方を対象に、オレンジバスの運賃半額とする「おでかけ元気バス」を配布します。 【事業4－1－2 子ども達の移動支援】 ・オレンジバス運賃について未就学児の無料を継続します。 ・オレンジバス運賃について小学生運賃を新設します。	運行事業者による集計	20,165人 (R5.4～R6.3)	20,994人 (R6.4～R7.3)	23,005人 (R7.4～R8.3)	・おでかけ元気バスの利用者数は2,011人増加(9.6%増) ・高齢化に伴う所有者の増加や、事業開始から5年が経過し制度が定着してきたことで利用者が増えたと考察。 (75歳以上) 令和7年3月＝4,455人(対前年＋270人) 令和8年3月＝4,661人(対前年＋206人)	A	・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気バス事業を実施する。 ・次年度も引き続き、小人運賃(100円)、未就学児の運賃無料を実施する。	
【基本目標4－2】 公共交通の魅力発信			現在値	目 標							
運転免許証の返納者数	98人	現状以上に増加	【事業4－2－1 自動車運転免許自主返納の促進】 ・高齢者による自動車交通事故を削減するため、運転に不安がある方の自動車運転免許証の自主返納を促し、公共交通利用を促進します。 ・三重県、民間事業者による取り組みを紹介するとともに、本町独自の取り組みについても検討、実施します。	いなべ警察署への聞き取り	94人 (R5.4～R6.3) ＊いなべ警察管内では206件	110人 (R6.4～R7.3) ＊いなべ警察管内では231件	92人 (R7.4～R8.3) ＊いなべ警察管内では203件	・東員町内の運転免許返納者数は92人となり、前年から18人減少。おでかけ元気バスの利用促進や、運転免許返納についてのさらなる啓発が必要である。	B	・次年度も引き続き、高齢者の外出、社会参加の促進及び健康増進、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気バス事業を実施する。 ・生活交通を考える会の活動において、運転免許証返納の啓発を取り入れる。	
利用促進活動の実施回数	0回	2回以上	【事業4－2－2 公共交通利用を促進する情報提供】 ・鉄道、路線バス、オレンジバスを掲載した総合的な公共交通マップやホームページの作成、経路検索など、公共交通利用を促進するための情報提供を実施します。また、公共交通は安全、安心そして便利であることをアピールし、利用促進を図ります。 ・マップなどについては、一般向け、高校生向けなどを作成します。町内事業所などへの配布などにより、町民のほかには町内従業者などへの公共交通利用促進につなげます。 【事業4－2－3 公共交通利用促進イベントの実施】 ・北勢線のサンタ電車とオレンジバスの乗車無料券の配布や町のイベントでのバス乗り方教室など、バス利用促進活動を継続して実施します。 ・その他のイベント開催時には、会場へのアクセスに公共交通利用を促すなど、各種イベントなどを契機に公共交通の利用促進を図っていきます。 【事業4－2－4 バスロケーションシステムの活用】 ・バスロケーションシステムを活用し、オレンジバスをより便利に利用できるよう情報提供を行います。 ・バスロケーションシステムと連動する乗降センサーを活用し利用者ニーズを詳細に把握し、交通施策に反映します。 【事業4－2－5 公共交通の「見える化」の推進】 ・検索サービス、地図アプリへの掲載など、公共交通が利用しやすいくなるよう公共交通の「見える化」を推進します。 【事業4－2－6 観光資源の活用】 ・町の観光資源である中部公園をおすすめスポットとして公共交通と連携した利用を広くPRします。 ・町陸上競技場をホームスタジアムとして活動するサッカーチームと連携するなど、観光と公共交通の関係を深め東員町の魅力を来町者に発信します。	期間中の取組実績	3回 (R5.4～R6.3)	3回 (R6.4～R7.3)	4回 (R7.4～R8.3)	・公共交通の利用促進活動として、わくわくフェスタでの啓発(ぬり絵展示含む)、TOINフェスタでの啓発(ぬりえ展示含む)、サンタ電車イベントでの啓発(無料乗車券含む)、選挙時の移動支援を実施した	A	・町内で開催されたイベントに公共交通ブースを出展し、オレンジバス、北勢線の利用促進活動を実施。(10/5 とういんわくわくフェスタ、10/25 TOINマルシェ) ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージで、イベントで募集したオレンジバスぬりえのデジタル展示を実施。計131作品を展示。展示期間中に使用できる無料乗車券をイベント時に配布。利用枚数7枚。 ・公共交通の相互利用の促進を目的に、北勢線のサンタ電車のイベントに合わせオレンジバスの無料乗車券を発行し、配布。利用枚数は南北線29枚、東部線10枚。 ・新たな取り組みとして、選挙時(参議院選、県知事選、衆議院選)の移動支援として無料乗車券を配布。利用枚数82枚。 ・次年度も引き続き、利用促進に資する活動を実施していく。 ・バスロケーションシステムを活用し、バス停のQRコードやスマートフォンアプリにより、バスの位置情報をその場で確認できる状態を確保。 ・次年度も引き続き、事業の継続及び普及活動に取り組んでいく。 ・Googleマップなどの各種経路検索サービスやスマートフォンアプリ(もくいく)に、バスのルートや時刻情報を掲載し、利用者が検索できる状態を確保。 ・次年度も引き続き、Googleマップなどの各種経路検索サービスに遅延なく情報を掲載し、公共交通の「見える化」を推進する。 ・北勢線の利用促進及び町への訪問機会創出を目的として、北勢線事業運営協議会及び沿線市町と連携し、北勢線謎解き旅を実施 ・次年度も引き続き、東員町に訪れる目的を創ることににより、オレンジバス、鉄道、民間バスを含めた公共交通全体の利用促進を図る。	
【基本目標4－3】 快適性の向上			現在値	目 標							
キャッシュレスや感染症対策など快適性を向上する取り組みの数	0回	1回以上	【事業4－3－1 キャッシュレスによる運賃収受の実施】 ・交通系ICカードやスマホ決済などのキャッシュレスによるオレンジバス運賃の決済方法について、北勢線の導入状況なども勘案して実現可能性を検討し、導入に向けた取り組みを推進します。 【事業4－3－2 感染症対策の実施】 ・鉄道、バス、タクシーで実施している新型コロナウイルス感染症対策(車両などの消毒、換気、マスク着用など)を継続し、安心・安全に利用できることをPRすることにより、乗り控えなどを抑制します。	期間中の取組実績	1回 (R5.4～R6.3)	1回 (R6.4～R7.3)	1回 (R7.4～R8.3)	・バス車内に設置したデジタルサイネージでの感染症対策についての動画放送を継続。	A	・次年度も引き続き、デジタルサイネージを活用した情報発信を実施し、安全性や快適性の向上を図る。 ・キャッシュレス決済については、第2次東員町地域公共交通計画に実施事業として掲げている通り、導入検討を進めていく。 ・上記以外にも、停留所へのシェルター設置などの快適性向上に資する取り組みを実施する。	